

# 全国の火山活動状況

気象庁観測部地震課

気象庁が常時火山観測を実施している桜島・阿蘇山・浅間山・伊豆大島の4火山については、昭和50年4月以降7月末までの活動状況を、その他の火山については、報告をうけたものについて状況を要約した。

第1表 火山情報発表状況

(昭和50年4月～7月)

| 回数 | 火山名 | 桜島 | 阿蘇山 | 浅間山 | 三原山 | 雌阿寒岳 | 樽前山 | 有珠山 | 北海道駒ヶ岳 | 十勝山 | 吾妻山 | 安達太良山 | 磐梯山 | 那須岳 | 三宅島 | 雲仙岳 | 霧島山 | チャチャ岳 |
|----|-----|----|-----|-----|-----|------|-----|-----|--------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 定期 |     | 4  | 4   | 4   | 4   | 1    | 1   | 2   | 1      | 1   | 1   | 1     | 1   | 1   | 2   | 1   | 1   |       |
| 臨時 |     | 2  |     |     |     |      |     |     |        |     |     |       |     |     |     |     |     | 1     |

第2表 全国火山活動概況

(昭和50年4月～7月)

| 火山名   | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
|-------|----|----|----|----|
| 桜島    | ▲  | ▲  | ▲  | ▲  |
| 阿蘇山   | ▲  | ▲  | ▲  |    |
| 雌阿寒岳  | △  |    |    |    |
| 雲仙岳   |    | △  |    |    |
| 鶴見岳   | △  | △  |    |    |
| 諏訪之瀬島 | ▲  | ▲  | ▲  | ×  |
| チャチャ岳 |    |    | ▲  |    |

注： ▲噴火      △異状現象      ×未報告

## 桜島

4月は爆発が多かったが、以降次第に回数を減じ、7月上旬半ば以降は8月はじめまで、活動がやや低調であった。月爆発回数の推移は、4月27回、5月8回、6月7回、7月3回であった。4

月中旬にB型地震の群発がみられ、15日から20日までは毎日爆発し、合計18回を教えた。5月は爆発が散発的に起こり、ときに噴煙活動が活発な日もあったが、おおむね穏やかに経過した。6月は月半ばから連続噴煙が目立つようになり、ついで22日から23日にかけて火山性地震が著しく群発し、月末にかけて5回の爆発があった。

6月23日1時すぎと14時すぎの2回にわたり、大きな火山性地震の群発により、火口周辺(京大観測所)では有感地震が続いた。

このような有感地震の継続は、本年3月12日にもみられたが、継続時間は今回の方が長かった。

7月5日には桜島の高免や黒神方面で、積灰3.5cmに達する多量の赤灰が降り、ミカンは収入ゼロ、ビワは25%収入減という大きな被害をうけた。赤灰は硫酸濃度が高く、昭和47年10月、桜島町でミカン類が大被害をうけたことがある。

桜島南岳のA火口(主火口)内に、昭和47年秋以降の活動で新火口を形成し、A火口内に火口が二つ存在した時期があった。しかし昭和49年10月(鹿児島県による)ならびに50年3月10日(京都大学桜島火山観測所による)撮影の航空写真によると、A火口内の二つの火口は一つにまとまっていることが判明した。50年8月1日、鹿屋海上自衛隊の南岳火口撮影写真によると、A火口は径約200mのすりばち状を呈し、溶岩のせり上がり認められた。溶岩は同心円状に堆積し、新旧二段になっており、古い方は径150m、新しい方は約100mで、溶融状態の所はなく、中心部から強い噴気が出ていた。B火口は噴煙のため不明であった。

4月17日の大雨で、桜島北側に土石流が発生し県道が不通となった。

## 阿 蘇 山

阿蘇中岳第1火口は4月7日まで降灰がみられたが、4月中旬以降は白色噴煙に変わり、鳴動もなく静かとなった。4月21日の大分県中部地震では、阿蘇山で震度4を観測したが、火山の表面現象には変化はなかった。

5月下旬から6月初めにかけては、時々火山灰を含んだ有色噴煙に変わり、鳴動を伴う日もあった。6月7日には大雨後に一時、土砂や火山灰の噴出をみた。降灰は6月14~15日にもあった。

6月下旬から多発した火山性地震(無感90回)は、7月に入ってから少なくなり、火山性連続微動も小さくなり、孤立型微動も減少し、中岳第1火口はおだやかに白煙を上げている。ただ7月11日と16日には、阿蘇山付近でA型地震が発生し、山頂測候所では前者で震度2、後者で震度3を観測した。

6月17日から25日まで降り続いた914ミリの大雨の時には、いつもはできる湯だまりもみられず、表面活動はおだやかであった。

741火口は周辺の土砂や火山灰が火口内に流れこみ、これまですりばち状を呈していた火口丘も、南西側を残して崩れ落ち、火口壁から垂直に火口内部につながるようになった。

## 浅 間 山

噴煙も変化なく静かな状態が続いているが、火山性地震の動向をみると、地震回数の変動が大きく、地震活動が引きつづき不安定な状態になっている。

火口にもっとも近いB点の地震回数  
(昭和49年の月平均回数 375回)

| 50年  | 1月   | 2月  | 3月   | 4月   | 5月   | 6月  | 7月   |
|------|------|-----|------|------|------|-----|------|
| 地震回数 | 1554 | 839 | 1324 | 1886 | 1973 | 732 | 1976 |

伊豆大島

4日と5日に一時白煙が観測されたが、火山性微動も記録されず、極めて静かな状態である。

雌阿寒岳

(5月30日、火山情報)

火山性地震が2月から増加し、とくに3月、4月は多く観測された。いずれも微小なもので、短期間に回数の増加はあったが4月17日以降は減少した。

雌阿寒岳地震回数

| 年\月  | 1  | 2  | 3   | 4   | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11  | 12 | 計   |
|------|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|
| 1971 | 0  | 0  | 0   | 0   | 4  | 0  | 1  | 11 | 4  | 0  | 3   | 10 | 33  |
| 72   | 2  | 0  | 3   | 2   | 2  | 3  | 0  | 2  | 2  | 2  | 0   | 10 | 27  |
| 73   | 10 | 10 | 81  | 10  | 22 | 68 | 45 | 15 | 15 | 10 | 10* | 14 | 310 |
| 74   | 24 | 2  | 9   | 9   | 6  | 4  | 2  | 4  | 2  | 1  | 6   | 8  | 77  |
| 75   | 14 | 28 | 151 | 118 | 12 | 8  | 2  |    |    |    |     |    |     |

\* ) 1973年11月25日、56型地震計(300倍)を72A型電磁地震計(5000倍)に変更。

樽前山

(5月24日、火山情報)

昨年の12月ごろより本年(昭和50年)2月ごろまで、微小な火山性地震がかなり多く発生し、苦小牧測候所は嚴重に注意しながら震動観測・遠望観測に当たってきたが、遠望観測による煙の状況にはとくに変化はみられず、火山性微動も発生しなかった。現地観測の結果でも、噴出ガス・噴気温度・その他外観にはとくに変化はみられなかった。

## 有 珠 山

( 4月28日・7月30日・火山情報)

昭和新山はとくに異常は認められず、静穏な状態が続いている。噴気量も変化なくカメ岩の温度は580~600°Cを保っている。

62E型地震計(2000倍)による火山性地震回数は、1月11回、2月15回、3月17回、4月8回、5月8回、6月7回であった。

## 北海道駒ヶ岳

( 5月28日・火山情報)

大きな変化はなく、静穏な状態が続いている。火山性地震回数は1月1回、2月0、3月4回、4月0であった。

## 十 勝 岳

( 6月21日・火山情報)

62-I火口の噴気活動は弱まり、62-III火口の噴気活動が強くなり、遠望観測でも噴煙量がかなり増大しているのが認められる。62-II火口の噴煙量は引き続き多目である。しかし地震回数は少なく、とくに変化は認められない。

## 吾妻山・安達太良山・磐梯山

( 6月14日・火山情報)

特別な異常現象はなく、大きな変化は認められない。磐梯山では4~5月に地震回数が増加したが、吾妻山、安達太良山では大きな変化はない。

## 鳥 海 山

( 5月14日・仙台管区气象台より報告)

5月12日、鳥海山噴火対策専門家協議会が開催され、次のような見解が発表された。

### (1) 表面現象

昭和49年6月以後、噴気量は減少し、噴気温度も低下している。昭和50年4月16日の現地観測では噴気現象やその他の異常現象はみられなかった。なお今回の活動地域(新山、荒神岳)は岩盤がゆるみ、崩落の危険性もある。

### (2) 地震活動

鳥海山の火山性地震活動は、昭和50年1月下旬の群発性地震を除いては、昭和49年7月以後は次第に弱まっている。

### (3) 防災基本対策

表面活動・地震活動はともに弱まっており、現在のところ、噴火活動の兆候らしい現象は認められない。しかし未知の部分の多い火山であるので、今後とも観測および監視体制を維持し、火山活動の推移を見守っていく必要がある。

### 那 須 岳

( 6月4日, 8月5日火山情報 )

特に異常はなく、平静な状態が続いている。現地観測では、ここ数年噴気がみられなかった殺生石地区(那須岳から南東約4 Km )でごくかすかな噴気を観測した。

### 三 宅 島

( 5月14日、7月22日、火山情報 )

噴気温度や地中温度に大きな変化はなく、全般的に特に異常は認められなかった。火山性地震回数は3月5回、4月3回、5月6回、6月1回であった。

### 雲 仙 岳

( 6月10日、火山情報 )

5月6～8日、火山性地震が群発(223回、最大震度Ⅲ)した。

### 鶴 見 岳

( 4月30日・5月31日 大分地方気象台報告 )

白色噴気を高さ100～150 mに上げている。

### 霧 島 山

( 6月10日、火山情報 )

表面活動はひきつづきおだやかで、地震活動も低調であった。しかし5月5日に新燃岳付近で、大きなA型地震(最大振幅91マイクロン)が発生した。火山性地震回数は1月22回、2月20回、3月15回、4月12回、5月27回であった。

### 諏訪之瀬島

( 諏訪之瀬島分校の報告による )

3月 噴火(6日、17日、20日)

4月 噴火(3日、18日)

5月 噴火(1日、6日)

6月 ときに鳴動をきく

### チャチャ岳

(6月14日、火山情報)

14日03時20分ごろ、チャチャ岳の噴煙がかなり高く上がっているのが根室から観測された。